

アメリカ	1990	胎児組織移植の医学的適応 (Medical applications of fetal tissue transplantation)	アメリカ医師会 (American Medical Association)	JAMA 263, 1990, pp.565-570
アメリカ	2002 *5)	倫理的・法的事項に関する審議会の現在の見解 (Current opinions of the council on ethical and judicial affairs), 胎児研究ガイドライン (Fetal Research Guidelines)	アメリカ医師会 (American Medical Association)	http://www.ama-assn.org/で参照可 (2005年2月7日現在)
アメリカ	2001 *4)	連邦規則第45項 (Code of Federal Regulation 45) パート46: 被験者保護 (45CFR46: protection of human subjects)、サブパートB: 研究の対象となる妊婦、ヒト胎児、そして新生児のさらなる保護 (Additional Protections for Pregnant Women, Human Fetuses and Neonates Involved in Research)、 § 46.201 ~ §46.207	保健福祉省 (Department of Health and Human Services)、国立衛生研究所 (National Institute of Health)、被験者保護室 (Office for Protection from Research Risks)	http://www.hhs.gov/ohrp/humansubjects/guidance/45cfr46.htmで参照可 (2005年2月7日現在)
カナダ	1993	ケアのすすめかた: 新しい生殖技術についての勸許委員会最終報告書 (Proceed with care, final report of the Royal Commission on New Reproductive Technologies)、第13章 (pp.967-1105): 胎児組織の利用 (Use of fetal tissue)	新しい生殖技術についての勸許委員会 (Royal Commission on New Reproductive Technologies)	上智大学図書館所蔵
イギリス	1972 *4)	胎児および胎児由来試料の研究利用、諮問委員会による報告書 (The use of fetuses and fetal material for research, report of the advisory group)、通称: ピール・レポート (Peel report)	イギリス保健社会保障省 (Department of Health and Social Security) の諮問機関	British Library所蔵

胎児組織の採取にかかわった関係者は、研究成果発表の論文の共著者になれないという、記述あり (p.1001)。

その後数多く出される指針や報告書等、胎児組織の研究および治療目的での利用に関するルールの、原型とも言うべきものである。ここでは、提供者の同意や、無償のほか、倫理委員会での承認の原則が提示されている。

イギリス	1989 *5)	胎児および胎児由来試料の研究利用に関する手引きの検討 (Review of the guidance on the research use of fetuses and fetal material)、通称: ポーキングホーン・レポート (Polkinghorne report)	イギリス保健社会保障省 (Department of Health and Social Security) の諮問機関	1988 *4)	胎児組織の利用に関するイギリス医師会指針 (BMA guidelines on the use of fetal tissue)	イギリス医師会 (British Medical Association)	The Lancet I, 1988, p.1119	神戸大学図書館および西九州大学図書館所蔵
イギリス	1995	研究、診断、治療のための胎児組織利用に関する指導 (Guidance on the use of foetal tissue for research, diagnosis and therapy)	イギリス保健社会保障省 (Department of Health and Social Security)				British Library所蔵	
イギリス	2002 *5)	人間の身体、わたしたちの選択—イギリスとウェールズにおける人間の臓器と組織についての法律に関する審議会報告 (Human Bodies, Human Choices -the law on human organs and tissue in England and Wales, a consultation report)	イギリス保健社会保障省 (Department of Health)	2001 *5)	胎児の遺骸すべての配慮ある処分 (Sensitive disposal of all fetal remains)	王立看護協会 (Royal College of Nursing)	British Library所蔵	
オーストラリア	1992 *4)	ヒトを対象とする実験に関する国家保健医療研究評議会声明および補足事項 (NHMRC Statement on Human Experimentation and Supplementary Notes 1992)	国家保健医療研究評議会 (National Health and Medical Research Council)				http://www.dh.gov.uk/assetRoot/04/08/15/82/04081582.pdfで参照可 (2005年2月7日現在)	
							http://www.nhmrc.gov.au/issues/humanexp/supp5.htmで参照可 (2005年2月7日現在)	

他の指針・報告書の中で頻繁に引用される、実施規定 (Code of practice) である。提供者の同意や、無償のほか、倫理委員会での承認の原則に加え、中絶の意思決定と胎児組織提供の意思決定の分離および前者の先行、中絶の時期および方法に対する不干涉 (胎児組織提供によって中絶の時期および方法が影響されない)、胎児組織ドナーによるレジピエントの指定禁止と相互の匿名性確保など、その後も踏襲されることになっているいくつかの原則が示されている。

第15章において、同意・男性側の問題点・財産権・良心的反対など、胎児組織利用の法規制についての留意点が議論されている。

フランス	1984 治療、診断、科学的目的での死亡胎児組織および胚組織の利用についての意見＝意見番号1 (Opinion on sampling of dead human embryonic and foetal tissue for therapeutic, diagnostic, and scientific purposes)	国家生命倫理諮問委員会 (National Consultative Ethics Committee for Health and Life Sciences=CCNE)	この報告書では、胚から胎児への移行の時期を科学的に決定しかねるという理由で一貫して「胚」という言葉が使用されている。	http://www.ccne-ethique.fr/english/avis/a_001.htmで参照可 (2005年2月7日現在)。 「治療、診断、研究のため」に人間の死んだ胚や胎児の組織を採取することに関する見解。倫理的問題と法的问题(1984年5月22日)、『独仏生命倫理研究資料集(上)』、千葉大学飯田研究室、2003年、pp.187-191で紹介されている。
フランス	1997 ヒト胚細胞の収集とその治療的もしくは特定の目的での利用の確立についての意見＝意見番号53 (Opinion on the establishment of collections of human embryo cells and their use for therapeutic or scientific purposes)	国家生命倫理諮問委員会 (National Consultative Ethics Committee for Health and Life Sciences=CCNE)	1984年の意見(意見番号1)では、原則として女性の拒否がなければ胎児組織の利用は可としたが、1997年の意見(意見番号53)では、原則として、利用の目的等を明示した同意をとることを求めている。	http://www.ccne-ethique.fr/english/avis/a_053.htmで参照可 (2005年2月7日現在)
フランス	2001 生命倫理法改正草案についての見解＝意見番号67 (Opinion on the preliminary draft revision of the laws on bioethics)	国家生命倫理諮問委員会 (National Consultative Ethics Committee for Health and Life Sciences=CCNE)	磯部哲「フランスにおける人由来資料の利用規制」ジュリスト、1247号、2003年、pp.49-55によれば、生命倫理法の2003年改正案が検討されており、そのなかに胎児組織の利用(輸入?)に関する規定もある。	http://www.ccne-ethique.fr/english/avis/a_067.htmで参照可 (2005年2月7日現在)。 『応用倫理学研究』創刊号、応用倫理研究会、2004年、pp.68-96で紹介されている。

ドイツ			1991 *5)	胎児組織と胎児細胞の利用のための 指針 (Richtlinien zur Verwendung fetaler Zellen und fetaler Gewebe)	ドイツ医師会 (German Medical Association)	<a href="http://www.bundesarztka
mmer.de/30/Richtlinien/Ric
htidx/Fetalzell.html">http://www.bundesarztka mmer.de/30/Richtlinien/Ric htidx/Fetalzell.html で参照 可 (2005年2月7日現 在)。 倉持武、長島隆編『臓器 移植と生命倫理 生命倫 理コロキウム2』太陽 出版、2003年、pp.308- 320に日本語訳。
ドイツ			1998 *5)	人の脳への神経細胞の移植：ドイツ 医師会中央倫理委員会見解 (Übertragung von Nervenzellen in das Gehirn von Menschen : Stellungnahme der Zentralen Ethikkommission bei der Bundesärztekammer)	ドイツ医師会 (German Medical Association)	Deutsches Ärzteblatt 95(30), 1998, A1869- A1871所収 <a href="http://www.zentrale-
ethikkommission.de/10/60
Ueberverv.html">http://www.zentrale- ethikkommission.de/10/60 Ueberverv.html でも参照 可 (2005年2月7日現在)
オランダ	胎児組織およびその他の中絶残余物 を科学的目的のために提供および利 用する際の助言 (Advice on donation and use of fetuses, fetal tissue and other remains of abortion for scientific purposes)	オランダ保健審議 会 (Health Council of The Netherlands)				Journal of neurology 242, 1994, pp. 1-13 より引用
オランダ	医学研究の倫理的側面に関する委員 会年次報告書 (Dutch Committee on Ethical Aspects of Medical Research, Annual Report 1991 and 1992)	オランダ保健審議 会 (Health Council of The Netherlands)				Journal of neurology 242, 1994, pp.1-13 より引用
オランダ	胎児組織法 (Foetal Tissue Act)	国	2001 *5)			http://wetten.overheid.nl で 胎児組織法のオランダ語 名「Wet Foetaal Weefsel」を検索する と、原文を読める。 (2005年2月7日現在)

胎児の神経細胞を脳
に移植する治療研究
を禁止している。

スイス		1998 *4)	ヒト胎児組織の移植に関する医療倫理的指針 (Medical-ethical guidelines for the transplantation of human foetal tissue)	スイス医科学アカデミー (Swiss Academy of Medical Sciences)	Schweizerische Ärztezeitung, 79(39), 1998, S.1936-1940所収。 http://www.samw.ch/content/Richtlinien/e_TransplFoetal.pdf でも参照可 (2005年2月7日現在)
スウェーデン		1990 *4)	臨床上の移植研究における胎児組織の利用のための基本原則 (Guiding Principles for the Use of Fetal Tissue in Clinical Transplantation Research)	スウェーデン医師会 (Swedish Society of Medicine)	移植法第11条に「中絶胎児からの臓器、細胞組織の摘出採取」として規定がある。 菱木昭八朗「スウェーデンの臓器移植法」『比較法制研究』第20号、1997年、pp.101-135参照。
スペイン	1988 *5) ヒト胚および胎児とそれらの細胞、組織、臓器の提供と利用に関する法律(Law 42/1988 of December 28th on Donation and Utilization of Human Embryos and Fetuses or of their Cells, Tissues or Organs)	1988 *5)	ヒト胚および胎児とそれらの細胞、組織、臓器の提供と利用に関する法律(Law 42/1988 of December 28th on Donation and Utilization of Human Embryos and Fetuses or of their Cells, Tissues or Organs)	Bolctin oficial del estado: Gaceta de Madrid.1988 Dec 31, No. 314, pp.36766-36767 (スペイン語) 所収 http://www.cnb.uam.es/~transimp/ley42_1988.pdf (スペイン語) で参照可 (2005年2月7日現在)	International Digest of Health Legislation Vol.42, No.1 1991, pp.64-68に部分英訳が掲載されている。

第2条において、胎児組織を採取する医師と移植を実施する医師の間を仲介するコーディネーターの役割が規定されている。

胚・胎児の提供に関する独自の法律があるのはスペインとオランダのみ。

国際的なルール

地域など	国際機関による指針・報告書・勧告等		専門家集団による指針・報告書・勧告等		備考
	年	名称	作成主体	作成主体	
ヨーロッパ	1986	ヒト胚と胎児の診断、治療、科学、工業、商業目的での利用について (On the use of human embryos and foetuses for diagnostic, therapeutic, scientific, industrial and commercial purposes)	欧州評議会議員会議 *2) (Parliamentary Assembly of the Council of Europe)		Journal of neurology 242, 1994, pp.1-13より引用。 http://assembly.coe.int/Documents/AdoptedText/ta86/EREC1046.htm で参照可 (2005年2月7日現在)
ヨーロッパ	1988	ヒト胚および胎児に関連する科学研究についての報告書 (Report on scientific research relating to the human embryo and foetus)	欧州評議会議員会議 *2) (Parliamentary Assembly of the Council of Europe)、科学技術委員会 (Committee on Science and Technology)		Journal of neurology 242, 1994, pp.1-13より引用
ヨーロッパ	1989	ヒト胚と胎児の科学研究目的での利用について (On the use of human embryos and foetuses for scientific research)	欧州評議会議員会議 *2) (Parliamentary Assembly of the Council of Europe)		Journal of neurology 242, 1994, pp.1-13より引用。 http://assembly.coe.int/Documents/AdoptedText/ta89/EREC1100.htm で参照可 (2005年2月7日現在)
				1989	http://www.wma.net/e/policy/f7.htm で参照可 (2005年2月7日現在)。 日本医師会編『国民医療年鑑平成元年年度版』春秋社、1990年、pp. 207-209 および河野友信、平山正実編『臨床死生学事典』日本評論社、2000年、pp.299-301 および生命倫理と法編集委員会編『生命倫理と法』太陽出版、2003年、pp.40-41に日本語訳。
					世界医師会 (World Medical Association)
					胎児組織移植に関する世界医師会声明 (World Medical Association Statement on Fetal Tissue Transplantation)

ヨーロッパ	2002 *4)	ヒト胚の利用と胎児組織移植に関する倫理ガイダンス (Ethical guidance on the use of human embryonic and fetal tissue transplantation)	欧州委員会生物医学プロジェクト (EC BIOMED Project)	1992 *5)	胚性、胎児性組織を治療、臨床用途に用いるための指針 (Guidelines for the Use of Embryonic or Fetal Tissue for Therapeutic Clinical Applications)	国際産科婦人科連合 (International Federation of Gynecology and Obstetrics)	http://www.figo.org/で参照可 (2005年2月7日現在)
ヨーロッパ	1994 *4)	実験的および臨床的神経移植と研究のためのヒト胚もしくは胎児組織使用の倫理指針 (Ethical guidelines for the use of human embryonic or fetal tissue for experimental and clinical neurotransplantation and research)	NECTAR(Network of European CNS*3) Transplantation and Restoration)は、ヨーロッパ11ヶ国の13の団体によって1991年に結成された研究者の組織。	1994 *4)	実験的および臨床的神経移植と研究のためのヒト胚もしくは胎児組織使用の倫理指針 (Ethical guidelines for the use of human embryonic or fetal tissue for experimental and clinical neurotransplantation and research)	ヨーロッパ中枢神経系移植・修復ネットワーク (NECTAR: Network of European CNS Transplantation and Restoration)	http://www.nesu.mphyl.lu.se/nectar/eth.1.htmlでも参照可 (2005年2月7日現在) Journal of neurology 242, 1994, pp.1-13、
ヨーロッパ	2002 *4)	ヒト胚の利用と胎児組織移植に関する倫理ガイダンス (Ethical guidance on the use of human embryonic and fetal tissue transplantation)	欧州委員会生物医学プロジェクト (EC BIOMED Project)	1994 *4)	実験的および臨床的神経移植と研究のためのヒト胚もしくは胎児組織使用の倫理指針 (Ethical guidelines for the use of human embryonic or fetal tissue for experimental and clinical neurotransplantation and research)	ヨーロッパ中枢神経系移植・修復ネットワーク (NECTAR: Network of European CNS Transplantation and Restoration)	http://web.inter.nl.net/hcc/gewi/biomed/WIVdocuments.htmで、このガイダンスに先立つ意識調査等の結果も含めて参照可 (2005年2月7日現在)

- * 1) 2005年2月時点で把握したもの
- * 2) 外務省 (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ce/>) の訳にならった。
- * 3) central nervous system (中枢神経システム) の略
- * 4) 平成15年度総括報告書に邦訳を掲載。
- * 5) 平成16年度総括報告書に邦訳を掲載。

厚生労働科学研究費補助金 ヒトゲノム・再生医療等研究事業
ヒト胎児組織の供給システムのあり方と胎児組織提供コーディネーターの役割に関する研究
平成 16 年度総括研究報告書
(H15-再生-022)
主任研究者 玉井 真理子
発行日 平成 17 (2005) 年 3 月

研究班事務局 信州大学医学部保健学科玉井研究室
Tel/Fax : 0263-37-2396 e-mail : mtamai@gipac.shinshu-u.ac.jp

印刷・製本 (協) 高速印刷センター
(札幌市手稲区曙 2-5-2-48 TEL (011) 683-2231)
